

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01～2019/03/31)

### 1. 勉学の状況

3月から授業が始まり、授業の内容はどれも興味深いものばかりなのですが、日本にいた頃とは比べ物にならないくらい予習と復習に毎日が忙しいです。私は人権論、社会学入門、犯罪学入門の3つのUnit（モナシュ大学での授業の単位）を履修しているのですが、その3つとも、毎週たくさんの読み物の課題が出ます。そして授業で扱われる話では、当たり前ですが、専門的な用語がたくさん飛び交うので、日常会話程度の英語では全く歯が立ちません。Tutorialで一度、ネイティブの学生同士で話が始まってしまうと、会話の速度が速すぎて飛び入ることができないことが多々あります。また、英語力の問題とはまた別に、すぐに自分の意見を頭の中でまとめて発表する、というディスカッションの過程で、自分の発想力の無さを実感させられます。とりあえず今は与えられている読み物の課題をこなすことで知識を蓄え、話についていけるようにすることで精一杯です。ただ、自分が発言できるチャンスも確かにあるので、それをしっかり逃さないように予習をしっかりしています。

先月の報告書で触れたように、授業1つ毎に毎週、講義形式のLectureが1時間、ディスカッション形式のTutorialが1時間あります。Tutorialは必ず出席しなければいけません、Lectureは実際に出席するかどうかは自由です。Lectureはインターネット上でライブ中継が行われているので、例えば体調がすぐれない時は寮の部屋から講義を聞くことができますし、授業が終わった後も内容が録画されているので何度も復習に使うことが可能です。このシステムはとても便利なので、頻繁に利用させてもらっています。前もって授業の範囲になっている教科書のページを読んでから授業に臨むようにしているので、それで授業の内容は大体把握できるのですが、それでも先生たちが言っている内容を全て把握できるまでには至っていないので、記録されているビデオを繰り返し観て、その週の内容を理解するようにしています。

そして以上のクラスに加え、私は韓国語を学ぶワークショップにも通っています。これはMonash Student Associationという学生団体が行なっているもので、講師もその団体からボランティアで参加している学生の方々です。通常の授業に比べ、ゆっくりと言語を学ぶクラスなので、毎週緊張感無く、とても楽しく参加しています。韓国語の他にも日本語など様々な言語のクラスがあります。私がいる韓国語のクラスの受講者のほとんどは初めて韓国語を学ぶ人ばかりです。このクラスでは仲の良い友達もでき、クラスが終わった後に一緒に昼ご飯を食べに行ったり、休日に町の中心部に出かけたりしています。通常の授業が忙しく、千葉大学にいた時のように第三言語、第四言語の学習が思ったように進まないですが、無理のない範囲でこれからも進めていけたらと考えています。

## 2. 生活の状況

先月の報告書では入居している寮についての不満をたくさん書いてしまいましたが、寮に住んでいる他の友達や、キャンパス外に住んでいる友達の話を知っているうちに、寮には寮なりの良い点、悪い点があることに気がついたので今回はそれらについて書いていこうと思います。

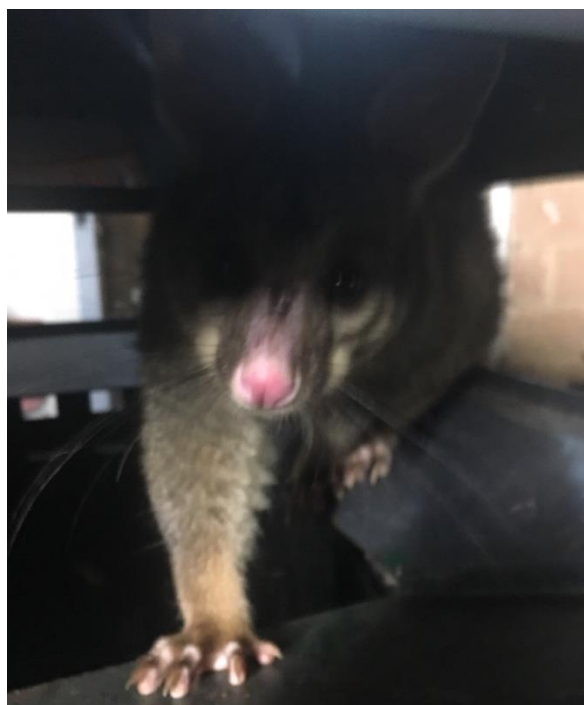
私は行ったことがないのですが、キャンパスの周りにはバーやクラブがいくつかあるそうです。勉強の合間の気晴らしのためにそこを訪れる学生は多いそうなのですが、やはり一人で行くのは不安だということで同じ寮の人たちと一緒にいき、そして一緒に帰る、ということをするようです。そのようなところで寮でのコミュニティが便利だそうです。一人でバーやクラブに取り残されることもないので、安心だと友達は言っていました。そしてそのようなコミュニティもあるということから、新しく仲良くできる友達も増やしやすそうです。

また、食生活の面で助け合いをすることができるのも寮の良いところだと聞きました。あらかじめ仲の良い友達同士でグループを組んでおき、曜日毎に担当を決めておいて、自分の担当の時には他のメンバーの分の食事と一緒に作っておき、それ以外の曜日には他のメンバーが作った食事を食べる、ということを寮に住んでいる一部の人はやっているそうです。授業が忙しくて食事を作る時間が無い、という学生にとってはとてもありがたいシステムです。また、ベジタリアンやヴィーガン同士でグループを組んでおけば、自身の信条に合った食生活を効率的に送ることができるようです。日本と比べて、メルボルンはより多くの場所でそのような信条を持った人に対しての選択肢が用意されているように感じますが、ベジタリアンの友人曰く、そうは言っても全ての場面においた必ずそうであるわけでは無いようです。そのため、同じ信条を持った友達同士でクッキンググループを組んでおいて、料理を作り合う、という機会はとても役に立つそうです。

そして何よりの利点は、大学構内にあるという立地条件です。街灯がほとんどない住宅街に比べ、大学構内は夜遅くまで明るく、人通りもあります。外食等の用事で帰宅が夜になった場合、バスを降りてから、真っ暗な住宅街を一人で歩いて行くのはやはり心細いです。携帯電話等で明かりを照らしながら進まないは何も見えないほどに真っ暗なので、大学外に住んでいる友達はUberで家の前まで帰宅するようにしているそうですが、そうすると費用がかさんでしまうそうです。それに比べ大学の寮までの道は比較的安心で、またすぐ近くにバス停がいくつもあるので、実際に歩く距離もそこまでありません。この利点は大学外に住んでいる友達に聞くまで気がつかないものでした。

ただ、以上のような利点があっても、やはり不便な点が存在することも事実です。例えば、冒頭に述べたバーやクラブの件についてですが、夜遅くに帰ってくる入居者もいることから、深夜に酔っ払って大声で話したり歌ったりする人もいます。勿論、全員がそういう人ではないことは重々承知しているのですが、夜遅くに誰かが騒いでいる声で起こされるたびに「こんな寮いつか絶対に出て行ってやる！」と思います。寮のアシスタントの人に相談したり、時には自分から直接騒いでいる人たちのところに行って注意したりしていますが、中々改善されません。それに比べ、閑静な住宅街にあるシェアハウスに入居していると、周りにバーやクラブが少ないことから

そもそもそこに行く人が近くにおらず、深夜に騒がれるということはほとんど無いようです。バーやクラブに行きたい、という人にとっては不便かもしれませんが、私はそのような場所に全く興味が無いので、むしろその方が静かで助かります。私の認識としては、寮はあくまでただの拠点で、誰かと一緒に騒いだり仲良くしたりする場所というよりは、落ち着いて休んだり勉強をしたりしていたい場所なので、寮は自分の性格や考えにあまり合っていないのだと思います。ですが、寮に入居したことで仲良くなった友達がいることも事実です。その人たちと一緒に昼ご飯を食べたり、おしゃべりをしたりすることはとても楽しいので、寮に入居したことを完全に後悔しているわけではありません。また、先に述べた立地的な好条件があることも私としてはありがたいと思っています。まだ前期終了まで時間があるので、色々な人と相談しながら、住居に関してはゆっくり考えていこうと思っています。



寮の共同ゴミ捨て場に現れた野生のポッサム  
先述のものに加え、

大学外の住居と違いゴミ収集日がないためゴミをいつでも捨てられるという利点もありますが、このような野生動物が夜な夜なゴミを荒らしにきてしまうという欠点もあります

さて、話は変わりますが、モナシュ大学のあるヴィクトリア州では、交通機関を利用するときに必ず **myki** カードという IC カードが必要になります。利用の仕方は日本の Suica や PASUMO と同じで、予めお金を払ってカードにチャージをしておき、利用時にバスの入り口や駅の入りにある機械にタッチして乗車する、というものです。日本のものと少し違うのは、購入時に個人情報のやりとりが不要で、大学内の売店など様々なところでカードを容易に買うことができるということです。ですので、カードを何枚も持っていて、誰か持っていない、あるいは失くしてしまったという人に自分の余りのカードをあげてしまう、という人もよく見かけます。この myki カードが無いとヴィクトリア州の公共交通機関は利用できないようなので、いつでも欠かさず持っておく必要があります。そして交換留学生である私はありがたいことに、正規学生同様、タッチするたびに差し引かれる金額が半分になる学割専用の myki カードを利用することができます。車の免許証を持っていない人は特にバスや電車を利用することが当たり前になるので、このような制度は非常に便利です。



myki カード